

令和2年度 第1回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

議事概要

日時：令和2年9月30日（水）13：30～16：00

会場：関東地方環境事務所 会議室

ぐんま男女共同参画センター 中研修室

日光市大沢公民館 会議室

桧枝岐村 山旅案内所 会議室

■総合司会 （株）野生動物保護管理事務所 奥村取締役

■事務局挨拶：関東地方環境事務所 井上課長

尾瀬・日光国立公園ではニホンジカによる貴重な植生への被害対策が重要な課題となっており、両国立公園の関係者が密接に連携して対策を行っていくことが重要である。そのために本協議会を設立し、協議会での議論をもとに尾瀬日光国立公園ニホンジカ対策方針を策定した。令和2年度1回目の広域協議会では対策の実施状況の報告、来年度の重点方針、地域別の対策について議論させていただきたい。有識者の先生方からは、今後のシカ対策の推進に向けて、ご意見、ご助言をいただきたい。

■議事：進行 関東地方環境事務所 井上課長

(1) 対象区域内におけるシカ生息状況及び対策の実施状況

- a. 令和2年度尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策報告（年次レポート）
- b. 尾瀬ヶ原におけるシカ食害影響調査の報告

(2) 令和3年度重点方針（案）の検討

(3) 地域別意見交換

(4) その他

(1) 対象区域内におけるシカ生息状況及び対策の実施状況

- a. 令和2年度尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策報告（年次レポート）

■質疑応答

○尾瀬山小屋組合

- ・尾瀬に侵入しているシカの移動経路が変わった気がするが、そのような認識で良いか。
- ・片品村にある古仲地域の民家周辺でシカが多数確認されている。部分的にルートを変更して南化しているのか。

○WMO

- ・平成20年度よりシカの移動経路を見てきているが、ここ十年で大きく経路が変わったという印象は受けていない。しかし、場所によって柵設置エリアや捕獲圧がかかった場所は避けている。
- ・昨年度初めて片品村内で越冬している個体を確認されたので、古仲周辺で越冬している可能性

はある。

b. 尾瀬ヶ原におけるシカ食害影響調査の報告

令和元年度の調査で源五郎堀付近においてミズバショウの地下部食害が確認された。深さ 50cm ほど掘り崩されており、ミズバショウの株ごと失われていた。現状ではイノシシかシカかの判断ができないため、今後モニタリングが必要になってくる。このままではミズバショウが激減する可能性が危惧された。

■質疑応答

○谷本名誉教授

- ・蹄の形、掘り返し方からイノシシの可能性が高い。センサーカメラを設置することで実態が分かってくる。岸の硬いところを掘り返されているが、これはシカには不可能と思われる。

(2) 令和3年度重点方針(案)の検討

■有識者からのコメント

○谷本名誉教授

- ・シカの GPS データなどわかりやすいデータが集まってきた。
- ・対象物の保護が主体となっており、シカの直接的な生態調査が行われていない気がする。特に越冬地におけるシカの生態調査が必要である。
- ・シカを捕獲するだけでなく、シカと共存するという視点からの調査が足りない。

○小金澤名誉教授

- ・環境省が指定管理鳥獣捕獲等事業において捕獲個体の残置を行っているが、どのように残置しているのか記録を取った方が良い。
- ・センサーカメラを用いたモニタリングに関しては解析方法の統一化が求められる。

○大森主幹

- ・優先防護エリアや分布拡大域が亜高山域などの対策に労力がかかる場所にシフトしていくことが予想される。今後、そのような場所でいかに効率的に防護柵の設置、維持管理を行っていくかが重要な課題となる。

○奥田准教授

- ・マクロな視点での対策手法は見えてきている。ここからの課題はミクروسケール(各自治体ごと)に落とし時の課題を挙げていくことが重要である。そしてミクロスケールで挙げた課題をマクروسケール(広域)に上げていくという作業が必要になる。そのためにもモニタリング解析手法などは統一化して行っていかなければならない。
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業、有害鳥獣捕獲、狩猟をどのように関連付けて実施するのか検討し、戦略的に行っていく必要がある。特に尾瀬の個体群は季節移動しているので各情報を取りまとめ、情報共有していくことが大切である。

■質疑応答

○丸山課長補佐

- ・今後はイノシシにも注視していくことが必要になるので、センサーカメラなどのデータを共有してもらいたい。

○環境省

- ・環境省で設置しているセンサーカメラのデータでイノシシの解析は可能である。次回の協議会で報告したい。

(3) 地域別意見交換

■栃木グループ

○事務局

【エリアごとの現場の状況について】

- ・各関係機関より、エリアごとの現場の状況（主にシカ）について共有を行った。シカが比較的多いと考えられるエリアは、白根山、湯元、戦場ヶ原の柵外（春）、足尾地域（冬）の社山・赤倉山・皇海山であった。一方、シカが比較的に少ないと考えられるエリアは三岳の高標高地域、戦場ヶ原の柵内であった。
- ・鬼怒沼については、谷本先生撮影の写真、栃木県林業センター撮影の定点写真がある他、長谷川順一氏の著書「栃木県の自然の変貌」が参考になる。
- ・太郎山や女峰山のエリアにもシカがいるが、今回対象にしているシカの集団とは異なる可能性がある。
- ・三岳や男体山では、近年、積雪量が少ないため、シカが低標高まで下りてこない。また、捕獲の際にスノーモービルが活用できない状況である。このため、捕獲数が伸び悩んでいる。
- ・足尾地域（赤倉山周辺）については、昨年度の台風の影響で道路が通行止めになっており、溪谷周辺での捕獲が進められていない。

【次年度以降の捕獲等について】

- ・白根山でのくくりわな捕獲は効率よく捕れるので実施するべき。
- ・湯元での捕獲は、誘引、囲いわなによる捕獲も可能だろう。
- ・千手ヶ原では、シカの移動経路上に通信機能のあるセンサーカメラを設置することでシカの移動状況を把握し、シカの移動時期に合わせた捕獲が行える。
- ・クマの錯誤捕獲に関しては、ICTを利用した囲いわなを用いて防ぐ案が出た。
- ・日光地域の捕獲に関して、赤沼の東側を通る季節移動個体（春・秋）および湯元に滞在する個体（夏）を捕獲していくと良いだろうとのコメントを有識者より頂いた。
- ・日光地域におけるシカのGPS行動追跡調査は、夏に日光地域に滞在している個体を追跡したいので次年度の夏に装着を行う方針。装着場所に関しては、後日検討を進める。候補としては、湯元、三岳。
- ・シカの越冬地の環境を明らかにし、シカと共存する視点を失念しないようにとのコメントを有識者より頂いた。

■群馬グループ

○事務局

- ・各関係機関より、現場の状況を伺い、情報共有、課題点と解決策について議論を行った。

【今後の柵の増設に向けた現状と課題の共有】

- ・柵内外で比較すると、柵内の植生が回復しており、柵の効果を実感している。
- ・柵の設置よりも、柵の老朽化、シカの噛みちぎり、イノシシの掘り返しなどによるメンテナンスや見回りの労力が大変である。
- ・亜高山帯域などのアクセスが大変な場所における柵の増設、維持管理をどのように行っていくかの検討が必要である。
- ・沢などにより、柵を閉め切ることができず、開口部ができてしまう。そこからシカが侵入している。
- ・シカが分布拡大している中、どの対策にマンパワー、予算をつぎこむか検討する必要がある。
- ・シカ対策として集めた募金を有効活用したい。
- ・柵の設置等を手伝っていただくボランティアの調整を可能な限り行いたい、ボランティアで対応できる範囲には限りがある。

【課題の解決策について】

- ・今年度、群馬県として研究見本園とオヤマ沢田代でシカ柵を設置するが、試験的な取り組みとしてやぐら型（やぐらを組み立て、ネットや支柱を保管できる仕組み）を導入する。今後、経過を観察していくが、人件費、設置費用の節約が期待される。
- ・維持管理について、定期的な見回り、情報提供については巡視員（尾瀬保護財団）にお願いし、設置や撤去、大掛かりな補修についてはボランティアを集って実施する体制を検討している。
- ・柵を小規模に多数設置することで開口部をなくすことができ、また柵内に侵入されたときの被害を限定することができる。
- ・イノシシ対策としてネットをアンカー等でしっかり土に埋めることが大切である。
- ・募金等については消耗品の購入、協議会の収入にするなど、有効活用できる可能性がある。

■福島県グループ

○事務局

・各関係機関より対策実施状況を順にご説明いただき、地図を見ながら担当者間で情報共有した。その上で課題となること、今後必要となる対策について議論を行った。

【対策の実施状況、情報共有】

- ・大江湿原でのシカ柵のボランティア設置は、コロナの影響により、今年は関係機関だけで実施した。
- ・南会津町は昭和村との広域協議会で両市町村全域に生息数推定のためのセンサーカメラの設置をしているが、今年度はコロナの影響で人員が集められず実施見送りとなった。
- ・南会津町民から田代山の柵の要望はあり、担当としてモニタリングの必要性は認識しているが、マンパワー・コスト面から町単独では対策の実施が難しい。
- ・御池田代に檜枝岐村が全長約 1,093m のシカ柵を設置し、KDDI が試験的に通信機能付きカメラを設置してシカの動向を確認している。今年はクマと考えられる破れが 2 箇所あった。

【課題となっていること、今後必要になる対策に関して】

- ・大江湿原のシカ柵について、柵を設置しても沼側の開口部から、あるいは柵を飛び越えて侵入しているシカがいる。設置のタイミングがシカが尾瀬沼に到着する時期とずれていることも課題である。
- ・①尾瀬～日光、②南会津町～那須塩原市・日光市のシカの移動経路は GPS 首輪の情報から明らかになってきている。一方で、両者の間の地域では、GPS 首輪が装着されておらず、シカの移動経路が未解明。移動経路が解明されることで効果的な捕獲場所の選定にも寄与できる可能性がある。
- ・越冬地を把握するためのモニタリングの実施が重要である。南会津町はほとんどシカがいなかった状況から数年で急激に増加している状況になっている。状況監視をする意味でも継続したモニタリングが必要である。
- ・会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山でのセンサーカメラによるシカ生息状況調査は、設置台数を増やすことより、少ない台数であってもまず今年度中に実施をすることが重要。

(4) その他

- ・特になし

地域別意見交換 広域での協力体制を強化するために

★地域別意見交換の取りまとめを含むver.

2020年10月14日

✓ コンセプト

■ 地域別意見交換：広域での協力体制を強化するために

- ✓ シカ対策の課題を共有し、解決方法を模索
- ✓ 繋がりを意識
- ✓ 広域協議会だからこそできる議論



みなさんにご発言いただきたいこと：

- ・現実的・理想的なことに関わらず
- ・個人的な発言でもアイデアの一つとして
- ・予算はあまり気にしないで
- 「何をしなければいけないのか」

個人攻撃はなし！

ざっくばらんに！

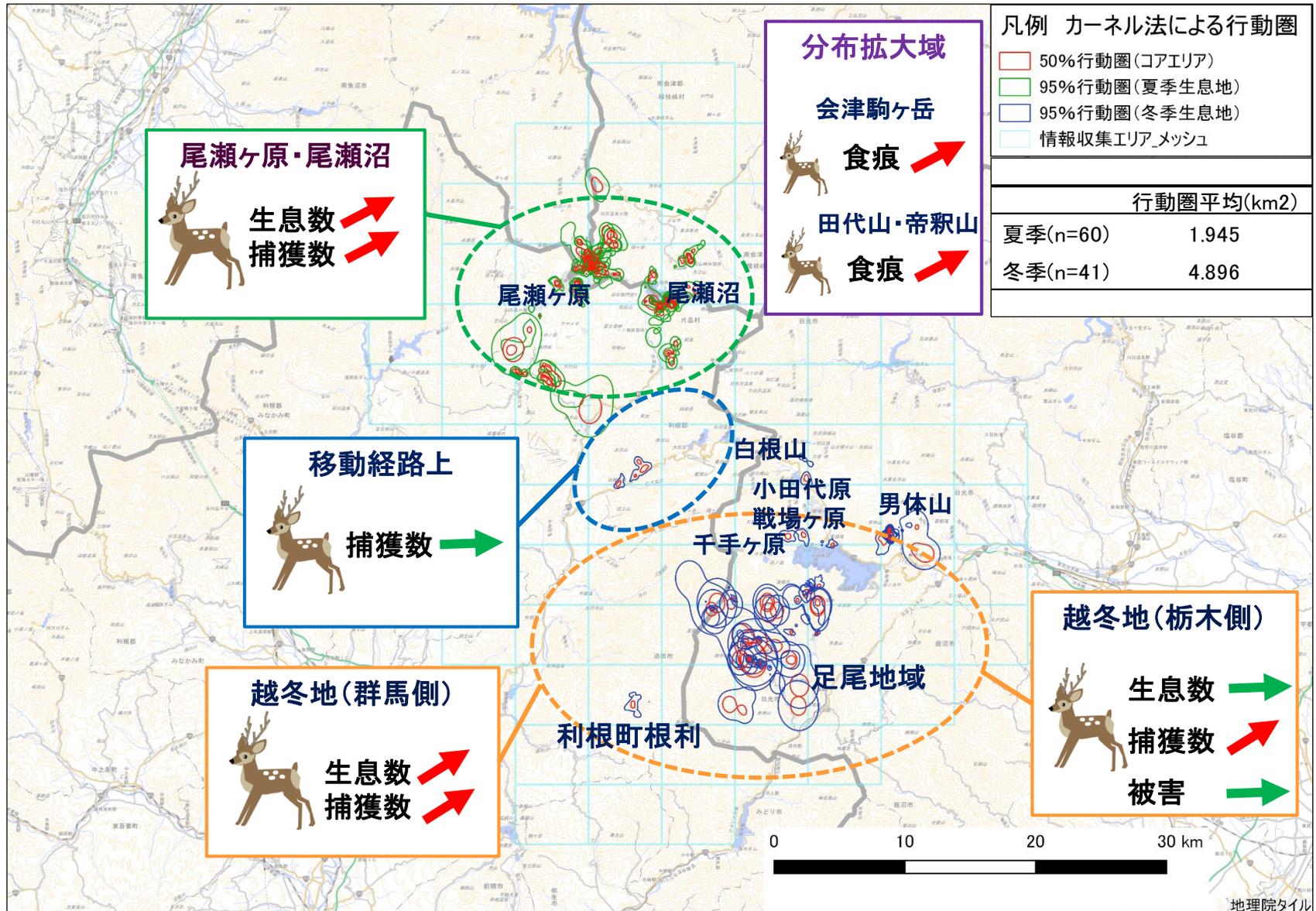
個人的な意見も歓迎



質問・悩み相談もOK！

やってみたいことでも
OK！

現状と課題



シカによる植生被害状況 (過去10年程度)



尾瀬

被害増加傾向



湿原

- ・ 採食状況は増加傾向
- ・ 掘り起しによる裸地は植被率の回復は早い
が、スゲ等の代償植生に変化



シカ柵を設置した大江湿原やヨツピ川では、ニッコウキスゲが回復傾向

森林

- ・ 採食状況は増加傾向
- ・ 低木類の本数や種多様性が低下

高山

- ・ 採食状況は増加傾向



日光

被害増加傾向



柵外：不嗜好性植物の増加
下層植生の生長阻害の継続

被害減少傾向
(植生回復)



戦場ヶ原柵内

森林：下層植生や低木層が回復
湿原：草本植生が回復

年次レポートとヒアリングシートから見えてきたこと

	栃木グループ	群馬グループ	福島グループ
捕獲	<ul style="list-style-type: none"> 奥日光の柵外の捕獲の強化。 足尾地域の捕獲強化。 ICTの活用。 千手ヶ原での捕獲時期の再検討。 捕獲実施場所の選定のための上手な情報活用が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県域での捕獲の実施。 捕獲困難地(丸沼・菅沼)での捕獲の強化。 奥鬼怒林道の柵の運用方針の検討。 移動経路上の捕獲の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な捕獲の検討(捕獲実施場所の選定)。 捕獲マンパワーの確保。
植生被害	<ul style="list-style-type: none"> シカ柵の軽微な修繕&見回り頻度の増加。 シラネアオイ保護柵内でのシラネアオイ衰退防止対策の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 防護柵の新設の検討。 柵の維持管理と体制の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 大江湿原の柵設置時期の見極めとボランティア集め。 田代・帝釈山での対策の検討。
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 鬼怒沼、女峰山、太郎山の現況把握がまだ。 奥日光地域利用のシカへのGPS装着がまだ。 	<ul style="list-style-type: none"> センサーカメラの解析方法の見直し。 尾瀬でのライトセンサスの実施時期の見直し。 ドローン等の新技術の導入の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期の調査実施が必要。 継続的なモニタリングの実施。 御池田代におけるモニタリング手法の検討。 高標高域(田代・帝釈山)でのモニタリング方法の検討。

啓普
等発及

- シカ対策と地域活性化が両立できる仕組の構築。

会場ごとのテーマ

栃木会場グループ

- テーマ: みんなで手作りGIS

群馬会場グループ

- テーマ: 協力関係を築くために

福島会場グループ

- テーマ: シカの分布拡大最前線での対策に向けた役割分担の検討

栃木会場グループ

テーマ: みんなで手作りGIS ～現場感覚の見える化～

レビューとヒアリングシートから見えたこと

捕獲: 強化したい場所、ICT活用の必要性など。

植生被害: 柵の維持管理の問題、シラネアオイ保護柵内での管理など。

モニタリング: 状況把握が必要な場所、GPS装着が必要な場所。



現場感覚は見えてこない！

現場感覚を地図に落とし込んで対策を考える材料にしたい！

ここ30年の日光地域のシカ管理

1990年頃～

シカの増加と分布拡大

植生への影響

1995年頃～

捕獲の順次強化

シカ柵の設置

2000年頃～

ピークよりは抑えている

柵内は守られた

2005年頃～

シカを減らしきれない

柵をいつまで継続？
柵外の植生はどうする？

日光地域のシカ管理の課題

急場を凌いだものの、シカがまだ高密度で植生への影響は継続

尾瀬との季節移動も確認され、もはや日光だけの問題ではない



捕獲強化によるシカの低密度化が
もっと必要



いつ、どこの地域で捕獲するのが効率的かつ効果的？
⇒やるからには、目に見える結果を出したい！！

現場感覚を見える化して捕獲戦略を考える材料にしたい！

Step1 : 手作り地図を作ろう！

エリアごとに現場の状況を伺います。

共有してほしいこと:

シカの増減、シカの動き、植生への被害状況の変化、市街地への出没状況、生活被害など。

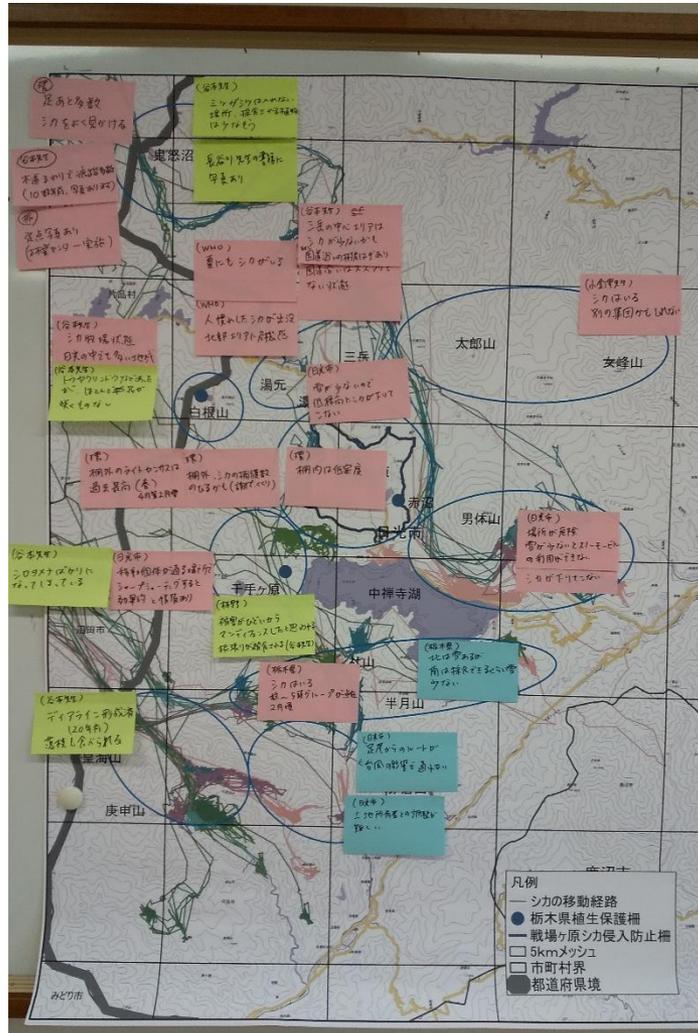
Step2 : 来年度以降の捕獲の狙い目を考えよう！

Step1で作った地図を眺めながら、来年度以降の捕獲場所の候補を探したいと思います。

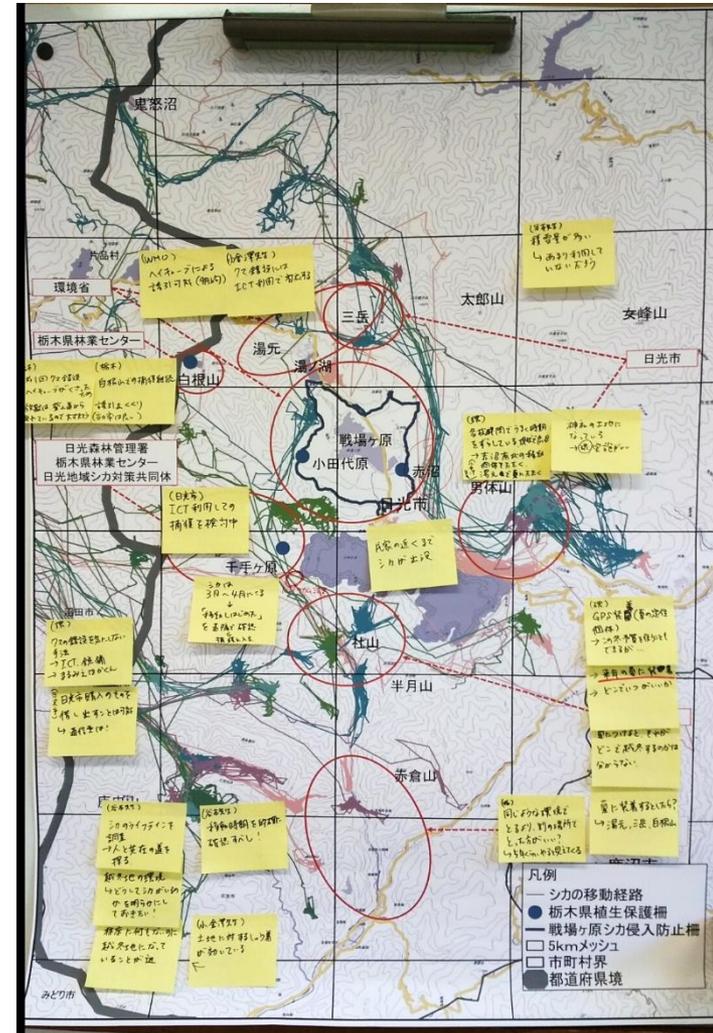
自分の所属機関が実現するかどうかは別にして、
ここは捕獲の狙い目かもしれない、と思う地域をピックアップしていきましょう！

Step1・Step2の内容および結果

Step1: 手作り地図を作ろう!



Step2: 来年度以降の捕獲の狙い目を考えよう!



Step1・Step2の内容および結果

グループワークを通して整理できたこと

・効率的な捕獲について

→アクセス困難地のシカはスレていないので、捕獲効率は予想以上に高い。

→春は捕獲適期の見極めが鍵だが、季節移動経路に通信機能付きセンサーカメラを設置すればリアルタイムで把握できる。

・クマの錯誤捕獲を避けたい地域について

→ICT囲いわなを用いることで懸念を解消。ICT囲いわなは高価だが、関係機関の間で融通できることを確認。

・日光地域でのGPS装着について

→夏に日光地域を利用している個体に確実に装着できるよう、夏に装着。

・気候と捕獲数について

→積雪の少なさや台風による災害等は、捕獲数が伸び悩む原因にもなる。

・シカと植生の情報が少ない地域について(鬼怒沼、太郎山、女峰山)

→定点写真など、過去の情報を集積している機関や書籍を確認した。

→既知の季節移動経路が集中する地域から優先して対策するのが妥当。

・シカとの共存について

→シカの越冬地の環境を調査し、シカのライフラインを明らかにすることが将来的に必要。

群馬会場グループ

テーマ：協力関係を築くために
～できることを共有して繋げていく～

レビューとヒアリングシートから見たこと

捕獲：捕獲未実施エリアや捕獲困難地での捕獲の検討課題。

植生被害：柵の増設や維持管理に係る課題。

モニタリング：データの解析方法、調査の実施時期、新技術の導入に係る課題。

普及啓発等：シカ対策と地域活性化が両立できる仕組の構築。



尾瀬地域はいろいろな関係機関や人が関わって成り立っている
捕獲は誰でもできるわけではない
植生保護は知識や経験がなくても誰でも貢献できる！！

誰が何をできて何をできないのか、どんな協力がし合えるのか
認識し合えたらもっと良い体制が作れる！

尾瀬での植生保護活動の歴史

1993年頃

シカが尾瀬に侵入

2012年～

背中アブリ・研究見本園・竜宮・大江湿原に柵設置

2015年～

ヨツピ川南岸・大清水湿原に柵設置

2019年～

優先防護エリアの選定

三条ノ滝に柵設置

尾瀬地域の植生保護対策の課題

湿原が広大なので、大規模柵の設置に係る維持管理の役割分担が課題

シカの確認頭数は毎年増加しているので、防護柵の増設が急務

捕獲と両輪で植生保護ももっと
強化していくことが必要

どこに希少種があるのか、誰が柵の購入・設置・維持管理・
クマ等の絡まり体制etcをするのか？
⇒適材適所のアイデアを出し合ってみよう！

いろいろな組織のできることを見える化して効率化を模索！

Step1：今ある柵の課題点は？

関係機関ごとに現場の状況を伺います。

共有してほしいこと：

今担っている役割のメリット・デメリット、組織の事情など。

Step2：誰が何をできるのか確認

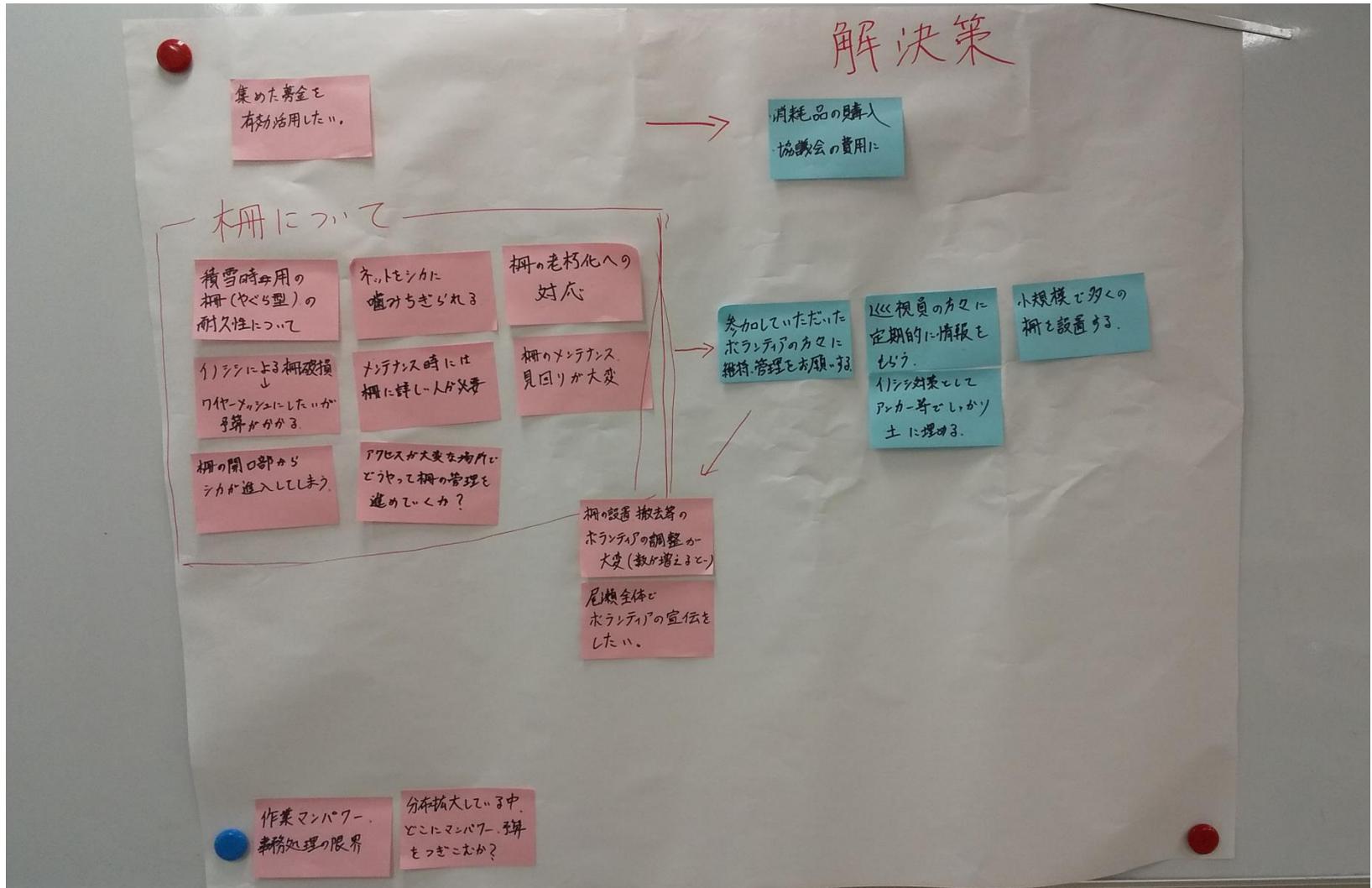
Step1で整理した情報を眺めながら、課題の改善策を探したいと思います。

自分の所属機関の枠組みは一旦忘れて、
「こうすればできるかもしれない」という可能性を整理していきましょう！

Step1・Step2の内容および結果

Step1: 今ある柵の課題点は？

Step2: 誰が何をできるかの確認



Step1・Step2の内容および結果(1/2)

グループワークを通して整理できたこと

・募金で集まったお金の有効活用方法

→民間から行政への現金の寄付は難しいが、資材・備品を購入して寄付した場合の受け取りは可能である可能性がある。

→協議会を設立し、その枠組みの中で寄付金を活用することが選択肢となる可能性がある。

・防護柵の破損・老朽化への対応について

→大規模柵の場合、一部の破損で動物が柵内全体に侵入し被害が拡大するが、小規模柵であれば一部の破損で内部に及ぶ被害は縮小できる。

→定期的な見回りで迅速な情報共有を行い、対応することが理想的。

→効果的なメンテナンスには知見の蓄積が必要なので、柵を長く見ている人・動物に詳しい人(柵の管理人)が必要。破損の原因を究明し、柵の管理人の知見を巡視員や作業員にインプットして、単純作業へフィードバックする体制とすることが望ましい。

・作業マンパワー

→どの対策にマンパワーをつぎ込むのか関係組織内で検討が必要。(ボランティアも有限である。)

Step1・Step2の内容および結果(2/2)

グループワークを通して整理できたこと

・防護柵のメンテナンスの効率化について

→防護柵の設置や撤去にボランティアを募ることで、マンパワーの確保と対策のPRが同時にできる。

→ボランティア参加の人に対して、山小屋宿泊料を一部割引して還元する。

→春先に残雪がある中でも設置ができる柵の開発により、シカに侵入される前に設置が可能。現在、群馬県がこれを試行中であることを確認。

・予算の配分について

→シカに留まらず野生鳥獣の分布拡大が進む中、限られた予算をどう使うか、関係組織内で検討する必要があることを確認。

・アクセスが困難な場所における防護柵について

→特に高標高域において柵の設置・管理をどのように進めていくか検討を進めることが必要であることを確認。

Step1・Step2の内容および結果(1/2)

グループワークを通して整理できたこと

・募金で集まったお金の有効活用方法

→民間から行政への現金の寄付は難しいが、資材・備品を購入して寄付した場合の受け取りは可能であることを確認。

→協議会を設立し、その枠組みの中で寄付金を活用することが可能であることを確認。

・防護柵の破損・老朽化への対応について

→大規模柵の場合、一部の破損で動物が柵内全体に侵入し被害が拡大するが、小規模柵であれば一部の破損で内部に及ぶ被害は縮小できる。

→定期的な見回りで迅速な情報共有を行い、対応することが理想的。

→効果的なメンテナンスには知見の蓄積が必要なので、柵を長く見ている人・動物に詳しい人(柵の管理人)が必要。破損の原因を究明し、柵の管理人の知見を巡視員や作業員にインプットして、単純作業へフィードバックする体制とすることが望ましい。

・作業マンパワーや事務処理

→どの対策にマンパワーをつぎ込むのか関係組織内で検討が必要。また、ボランティアを募る際の調整について、効率的な方法を検討することが必要であることを確認。

Step1・Step2の内容および結果(2/2)

グループワークを通して整理できたこと

・防護柵のメンテナンスの効率化について

→防護柵の設置やメンテナンスにボランティアを募ることで、マンパワーの確保と対策のPRが同時にできる。

→ボランティア参加の人に対して、山小屋宿泊料を一部割引して還元する。

→春先に残雪がある中でも設置ができる柵の開発により、シカに侵入される前に設置が可能。現在、群馬県がこれを試行中であることを確認。

・予算の配分について

→シカに留まらず野生鳥獣の分布拡大が進む中、限られた予算をどう使うか、関係組織内で検討する必要があることを確認。

・アクセスが困難な場所における防護柵について

→特に高標高域において柵の設置・管理をどのように進めていくか検討を進めることが必要であることを確認。

福島会場グループ

テーマ：シカの分布拡大最前線での 対策に向けた役割分担の検討

レビューとヒアリングシートから見たこと

- ①捕獲
マンパワーの確保・捕獲適地・適期の検討
- ②植生保護
 - ・大江湿原の柵の維持管理の課題
 - ・高山地帯での植生保護柵設置の検討
- ③モニタリング
福島県域でのシカ生息状況が未解明



尾瀬地域(福島県域)はシカの生息状況が少しずつ分かってきた。
次のステップとして、どこでどんな対策が必要か検討が必要！

福島県域のシカ管理の課題

捕獲: アクセス困難な場所が多く、捕獲マンパワーには限りがある

植生保護: 高山地帯など植生保護柵を設置すべき場所がまだある

モニタリング: シカ生息状況がまだまだ未解明

捕獲のマンパワーに限りがあるなら、
まずは守るべき場所を事前に囲い、
捕獲適地・捕獲適期も検討する！

燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山での
シカ対策(捕獲・植生保護・モニタリング)の
具体的検討が必要！！

⇒各機関のできることを整理して、協力して進めたい！

被害が大きくなる前に分布拡大の 最前線でのシカ対策を考える！

Step1:現状の整理

関係機関ごとに、

①捕獲、②植生保護柵の維持管理、③シカのモニタリング状況に係る状況を伺います。

共有してほしいこと:

現在上手くいっている事・上手くいっていない事、
今後できる事・できそうにない事など。

Step2:分布拡大最前線で行うシカ対策の役割分担の検討

Step1で作った地図を眺めながら、どう予算とマンパワーを配分すれば燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山でのシカ対策が進むのかを考えます。省力化や関係機関同士で協力できるアイデアも募ります！

自分の所属機関の枠組みは一旦忘れ、「ここここがこう協力できるなら上手くいくかもしれない」という可能性を探っていきましょう！

Step1・Step2の内容および結果

グループワークを通して整理できたこと

・捕獲の実施状況について

【檜枝岐村内】

→ 猟友会7人ほどで年間140頭ほど捕獲（指定管理捕獲）。近年は狩猟や有害は実施せず、すべて指定管理捕獲として実施。

【館岩地区】

→ 南会津シカ対策協議会（南会津地方振興局が事務局）として会津森林管理署南会津支署がワナを60基貸し出し、年間で60~70頭捕獲（指定管理捕獲）。

【南会津町内】

→ 有害では年間80頭、指定管理では年間414頭捕獲しており、農林業被害に対する目的であるが、町としての捕獲圧は増加。今後は被害軽減のために捕獲が必要な場所で必要な頭数を捕獲することを検討。

Step1・Step2の内容および結果

グループワークを通して整理できたこと

・防護柵の設置について

【田代山】

→南会津町民から柵設置を要望する声もあり、モニタリングが必要な認識はあるがマンパワー・コスト面から町単独での実施が困難。

【御池田代】

→檜枝岐村が全長約1,093mのシカ柵を設置し、KDDIが試験的に通信機能付きカメラを設置してシカの動向を確認中。

【大江湿原】

→柵を設置しても沼側の開口部から、あるいは柵を飛び越えて侵入しているシカがいる可能性を確認。

→設置のタイミングがシカが尾瀬沼に到着する時期とずれていることが課題であることを確認。

Step1・Step2の内容および結果

グループワークを通して整理できたこと

・モニタリングの実施状況

→南会津町が昭和村との広域協議会を発足し、全域でのカメラによる密度推定調査（REM法）、農水省の交付金を活用したGPS首輪装着を実施。

→環境省の調査で赤田代周辺のシカ個体数増加、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山での植生被害の増加が確認。

・モニタリング実施の重要性について

→「①尾瀬～日光、②南会津町～那須塩原市・日光市」以外の地域＝「檜枝岐～南会津町」では、GPS首輪が装着されておらず、シカの移動経路が未解明。

→移動経路や越冬地が解明されることで効果的な捕獲場所の選定ができる。

→分布拡大域であり、シカの生息情報の蓄積がないため、継続したモニタリング調査の実施が必要であることを確認。

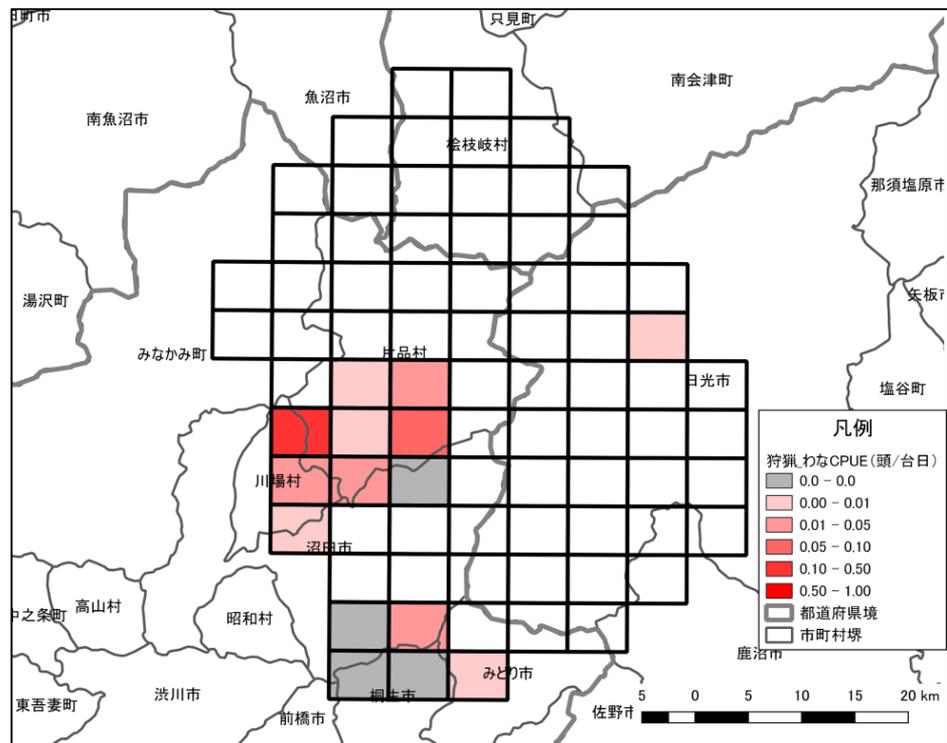
・モニタリング実施の役割分担の検討

→会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山でのセンサーカメラによるシカ生息状況調査は、少ない台数であってもまず今年度中に実施をすることが重要。

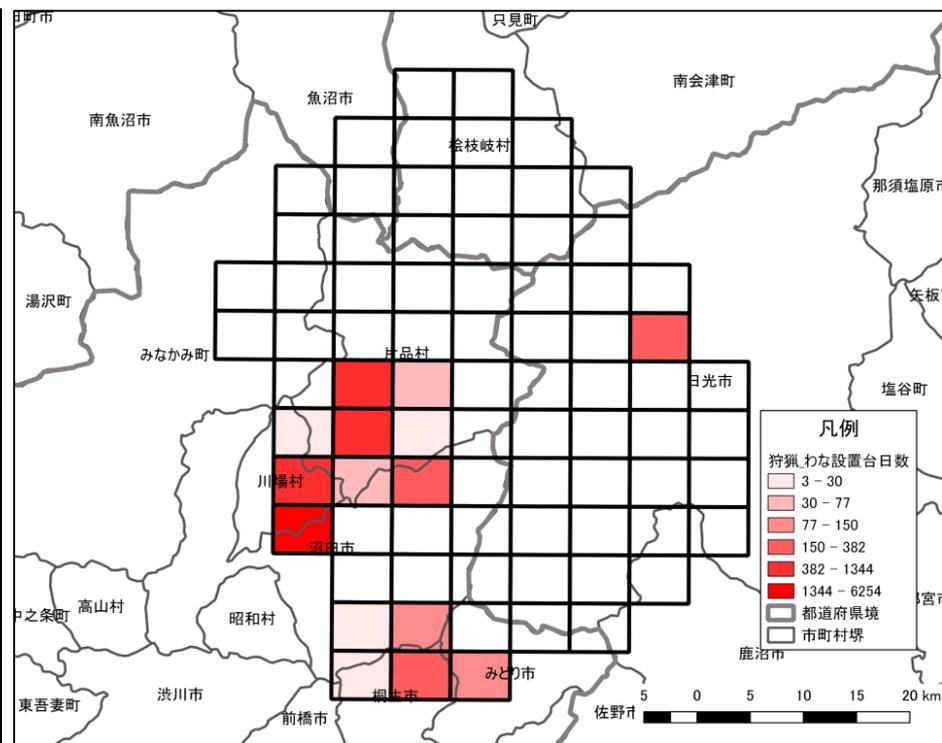
→奥田先生、環境省檜枝岐自然保護官事務所（カメラ所有）、南会津町で連携して実施を検討。

狩猟: わな捕獲のCPUE (捕獲効率)

捕獲効率(頭/台日)



設置台日数

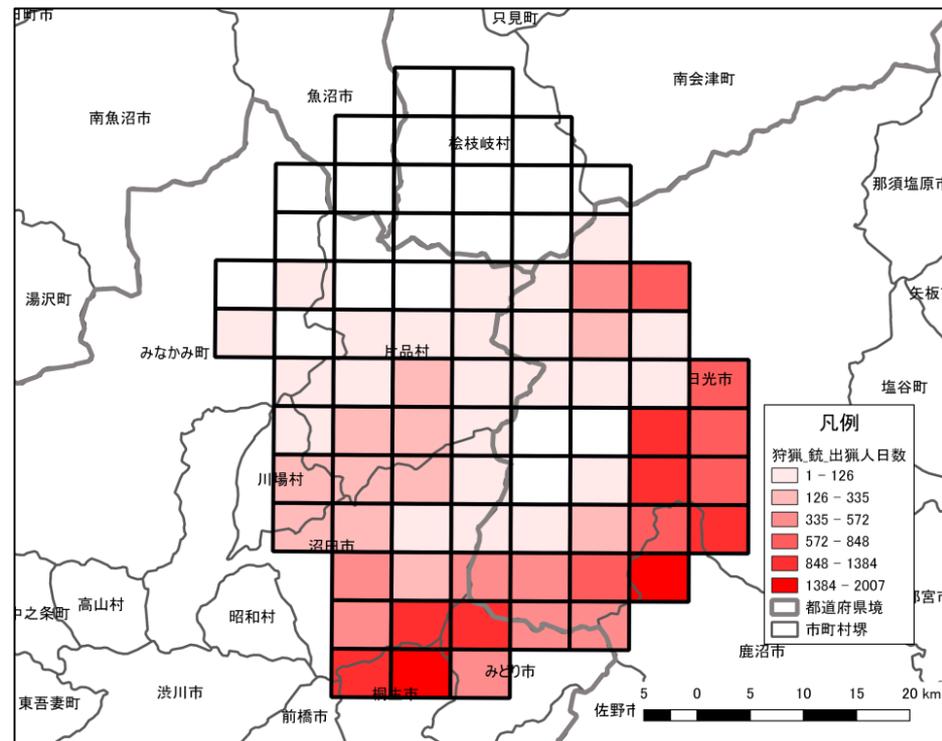
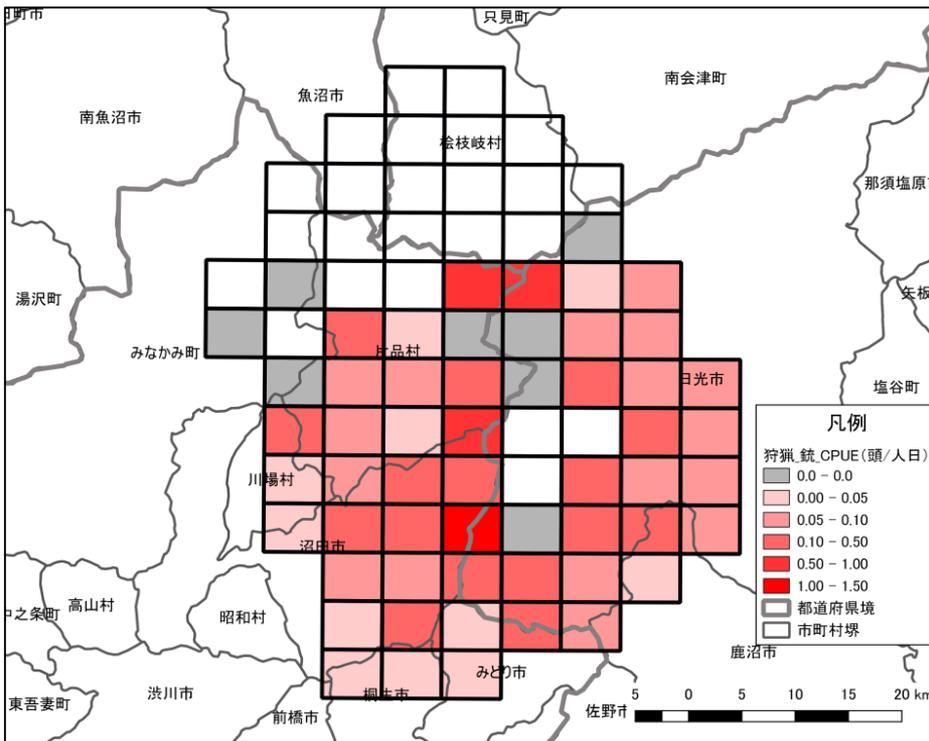


※福島県域は狩猟対象地域が含まれない。

狩猟：銃器捕獲のCPUE(捕獲効率)

捕獲効率(頭/人日)

出猟人日数



※福島県域は狩猟対象地域が含まれない。